



東北 復興日記

まだまだ

▶▶▶ 245

いわきおてんとSUN企業組合

オーガニックコットン事業部長

酒井悠太さん

題に関するトークイベントなど、来場者が今後の活動にどうつながっていくかを考えるプログラムが多くありました。

参加して感じたことは「個人の選択の積み重ねこそが、確実によい良い世界を作っていく」ということ。そして、ふくしまオーガニックコットンと、自社ブランド「ふくしま潮目」の製品は、その選択肢になり得ると実感しました。

二〇一五年にラッシュ・ジャパントのつながりが生まれ、ふくしまオーガニックコットンの生地が同社商品「Knott Wrap (ノット・ラップ、風呂敷)」と

私たちが生産する「ふくしまオーガニックコットン」の生地を、商品として販売する英国の化粧品メーカー「LUSH (ラッシュユ)」から、同社主催のイベント「ラッシュ・サミット」に招かれ、二月中旬にロンドンに行きました。

サミットは関係企業や一般客向け展示会のようなものです。会場

ふくしま潮目 次の一歩へ

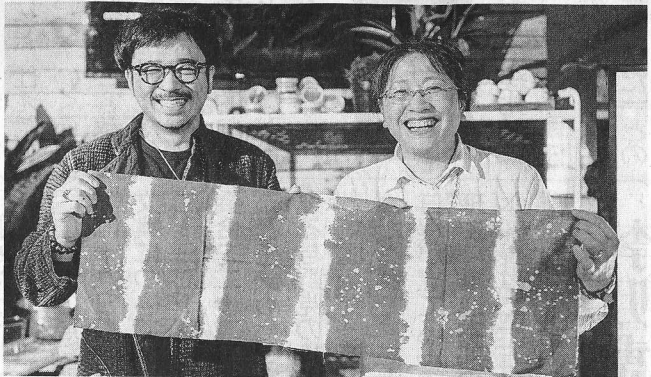
で「英国は福島の情報が入っていないから、福島の人から話を聞いてうれしかった。原発事故から立ち上がる希望の存在になってください」などの意見をうかがいました。

会場では、環境、資源、人権問

して採用されました。昨年は念願だったグローバル展開も実現しました。

今月には、手拭い型のノット・ラップも販売となりました。ふくしま潮目が丁寧にこだわりの持つて作ってきた手拭いが持つ機能性や、日本の生活文化が英国本社に認められたのです。また世界の多くの方の暮らしに届くことを想像すると、本当にうれしいです。

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトがスタートして今年で七年目に突入。さらなるステップアップへ向けた大きなチャレンジの年です。責任の重圧よりワクワク感が勝っています。大きな一歩が踏み出せそうです。|| 終わり



手拭いを手にする酒井悠太さん(左)

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。